

農業の事例

事業名【都道府県】

都市型農建連携による市民・観光農園振興事業【愛知県】

協議会名・参加団体名

都市型農建連携「アグリ事業」振興協議会

社団法人名古屋建設業協会、社団法人愛知県建設業協会、名古屋市緑政土木局、緑信用農業協同組合、財団法人名古屋市建設技術サービス財団



事業の背景

就業者の高齢化や近隣住民との関係疎遠化など、都市建設業と都市農業が抱える課題の多くは共通する。一方で「都市内農地の保全・再生」が叫ばれるようになり、その担い手が求められている。

事業の概要

○市民農園の運営管理、観光農園ビジネスの開拓

- ・地元建設業者による市民農園開設・運営のためのノウハウの習得と、観光農園ビジネスも視野に入れた知見の獲得
- ・市民公募による農園参加者ととともに、農園の造成から堆肥作り、苗付け、維持管理、収穫までの試行事業
- ・行政ならびに農協と地元建設業者の協働により、都市内農業と建設業とのマッチングの検証

○農地ならびに農地以外の「最適土」製造ビジネスの開拓

- ・地元建設業者の経営資源を利用して、目的に対して最適な土を現地で製造するノウハウの取得

事業の課題

- ・建設業者の農地法、関連諸法規等の理解ならびに農業分野進出意欲の喚起
- ・行政による「都市内農地の保全・再生」施策との連携 など

期待される効果

- ・市民・観光農園開設ノウハウ習得による建設従事者の雇用
- ・都市内の耕作放棄地の再生・活用の促進
- ・行政課題である「都市市民の食と農の関心促進」を実践
- ・最適土製造も含めて新たな公共事業の醸成

今後の建設業のビジネス展開

- ・現場管理、住民対策等の建設従事者のノウハウを生かした市民・観光農園運営事業
- ・自社所有地を含む都市内休眠地を利用した農業分野進出
- ・農地、公園、運動施設など、使用目的に応じた「土づくり」ビジネスの創出

雇用の状況

雇用者(のべ従事者数):91人
(平均雇用者数 9.6人/月)

【連絡先】

〒461-0001 名古屋市東区泉一丁目13番地34号
社団法人名古屋建設業協会内協議会事務局:井戸
tel052-971-1901 fax052-971-1903
Email:aguri_genkiup@yahoo.co.jp

都市型農建連携による

建設業と地域の
元気回復事業

市民・観光農園振興事業



市民との協働による農園の試行運営



粘土地盤を野菜栽培に適した土壌に改良



自ら創出する新しい都市型公共事業



事業管理責任者

社団法人名古屋建設業協会

協議会参加団体

社団法人愛知県建設業協会

名古屋市緑政土木局

緑信用農業協同組合

財団法人名古屋市建設事業サービス財団

事務局

〒461-0001 名古屋市東区泉一丁目13番地34号

社団法人名古屋建設業協会内

電話052-971-1901 FAX052-971-1903

Email : aguri_genkiup@yahoo.co.jp



1.仕事を自ら耕す事業です

行政課題

■農地・樹林地の保全と回復、活用

市民や農業者等の協力を得て、学校農園や給食リサイクル、地域ぐるみの市民菜園利用などの仕組みを検討し、モデル的な取り組みを踏まえ、他地区への展開に努めます。

農業を継続する上での課題である「人出・後継者不足」「農家の高齢化」と、市民の「土」「農」「緑」に親しみたいニーズをマッチングさせ…(中略)、農業支援をはかるとともに、市民の地産地消や農地に親しむライフスタイルの実践と定着に努めます。

(引用：「低炭素都市2050なごや戦略」名古屋市環境局地球温暖化対策室H21.11)

市民のニーズ

■名古屋市民の農業に対する意識調査より

「今後も名古屋に農業、農地は必要」 **89%**

「農との関わりとして収穫体験、農作業体験をしたい」 **41%**

「貸し農園を借りている、借りたい」 **64%**

(引用：「なごやアグリライフプラン」名古屋市緑政土木局 H18.3)



■社会の問題意識

低炭素・持続可能社会の実現

■直近のムーブメント

2010年10月「生物多様性第10回締約国会議(COP10)」名古屋市で開催

地元建設業者の強み

- 経営資源として人材と車両・重機等を擁し、「土」に関する各種ノウハウを有する
- 長年にわたり地域密着の生活資本整備に従事し、利害関係者間の調整に長けている
- 市民・行政との幅広い協働活動の実績を有し、両者からの期待と信頼を得ている



めざす成果

・都市内農地の保全・再生ならびに市民の農業体験を建設業者が担うことによる、

新たな公共事業の創出

・農地ならびに農地以外の現地土を建設業者の経営資源を使って

最適土に改良するビジネスの創出



2.官民一体で学び、体験する事業です



1 座学

- ・開催計画に基づき協議会メンバーが有識者から話題提供を受け、意見交換を行う。
- ・市民農園開設などに係る法的根拠など必要な知識を学ぶ。
- ・会場は名建協会議室または市内の貸会議室を使用する。

2 視察

- ・本事業の参考になる先進事例等の視察・ヒアリングを行う。
- ・少人数の視察、バスによる視察、一泊の視察を行う。
- ・市民農園のみならず観光農園、最適土製造関連の視察も行う。

3 (メイン活動①) 農業体験

- ・市内・郊外に借りた農地を使って協議会メンバーと共育講座に応募した市民らが全4回の農的体験作業を行う。…講座計画参照
- ・4回の講座を開催するための日頃の農園維持活動は協議会メンバーが行う。

4 (メイン活動②) 最適土製造・開発

- ・協議会メンバーの協力により、農地と農地以外の「最適土」を地元建設業者の資源を使って製造するノウハウを開発する。

5 調査研究

- ・主に外部委託により「建設業の農業分野進出の意向調査」「市民・行政・農家・農協の市民農園に対する意識調査」「市民農園・観光農園に係る国内外の先進事例調査」などを行う。

6 成果発表

- ・「活動成果発表会の開催」「建通新聞紙面による活動振り返り座談会」「活動報告書の作成」「関係諸方面への情報発信」等を行う。

事業スケジュール

活動項目	H22年												H23年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
① 座学(協議会の開催、有識者からの話題提供、農地法の勉強会等)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
② 視察(市民・観光農園と最適土製造関連の視察)					●	●	●	●	●	●	●	●			
③ 農業体験(市民農園の造成、たい肥作り、維持管理、講座の運営等)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
④ 最適土製造・開発															
				●	●	●	●	●	●	●	●	●			
						●	●	●	●	●	●	●			
⑤ 調査研究			●	●	●				●	●	●	●			
⑥ 成果発表(報告書の作成、活動成果発表会、新聞紙上での座談会)													●	●	●

*上記、破線は準備的活動の期間 実線は本活動の期間

3.市民協働で進める事業です



名古屋市3園、日進市1園の39区画(1区画約15m²)を確保し、協議会メンバー約40名と一般市民約110名が協働して市民農園試行業を行っています。



4つの市民農園試行地に設置した事業広報板(900×1800mm)

建設業と地域の元気回復事業

—市民農園試行地—

耕す

楽しむ

連携する

元気になる

旭出農園

なごや環境大学 共育講座のご案内

この事業で、市内4区所の土壌に合計30区画の市民農園を造成しました。なごや環境大学の受講生の前で、名産品を共に食と農の大切さを学びながら、土作りから種まき、草取り、収穫、身体測定までの活動体験を行います。

土づくりから始める活動体験は、初心者でも安心です。試行農園しながら一挙二得になっています。秋にはできた野菜で盛り込んだ鍋料理も作ります。

地域の皆さんの参加をお待ちしております！

詳しくは、なごや環境大学のホームページまたは、下記までお問い合わせください。

日程	講座内容	会場・講師
5月15日(土) 10:00~ 13:00	土づくりと農機具体験【講師】伊藤信雄様(学生です。)	旭出農園 農協指導員
5月16日(日) 10:00~ 13:00	種まきと農産物の収穫体験【講師】伊藤信雄様(学生です。)	旭出農園 農協指導員
5月20日(木) 8:00~ 18:00	土づくり体験【親子参加と地域との協力】(講師)伊藤信雄様(学生です。)	親子参加の旭出農園 伊藤信雄様(学生です。)
5月21日(金) 10:00~ 15:00	種まきと農産物の収穫体験(2)【講師】伊藤信雄様(学生です。)	旭出農園 農協指導員
5月22日(土) 10:00~ 13:00	収穫した野菜で鍋料理を作ります！【講師】伊藤信雄様(学生です。)	旭出農園 伊藤信雄様

お問合せ先 社団法人名古屋建設業協会内 電話052-971-1901

事業管理責任者 社団法人名古屋建設業協会 協議会参加団体 社団法人愛知県建設業協会 名古屋市緑政土木局 緑信利用農業協同組合 財団法人名古屋建設事業サービス財団